

個人の特性に合った化粧品検索システム

995093 駒野 めぐみ

(指導教員 速水 治夫 教授)

1 はじめに

近年では、化粧品の販売形態も大きく変化してきた。以前はカウンセリング販売をメインとしてきた化粧品も、気軽に商品を購入したいという消費者が増えたことにより、セルフ化が進んできている。また、カウンセリングを受ける時間や手間を省きたいという消費者も多い。このことから、カウンセリングを受けなくても、個人の肌特性に合った商品を検索できるシステムを提案した。

2 システム構成

本システムでは、まず利用者が検索マシンに自分の肌特性情報を入力し、その入力された情報を元にデータベースにアクセスし、利用者の肌に合った商品を検索する。システム全体の構成図は、図1システム構成(全体)の通りである。

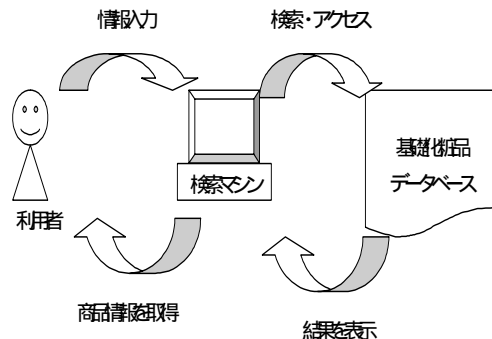


図1. システム構成(全体)

本システムの化粧品データベースのテーブル構成は、図2. 各テーブルのリレーションシップに示してある通りである。

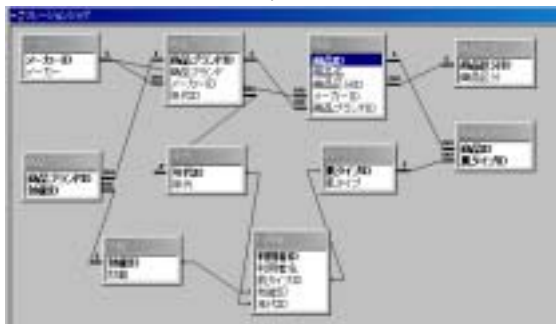


図2. 各テーブルのリレーションシップ

次に、利用者が本システムを利用する流れを図3. 利用方法に示す。

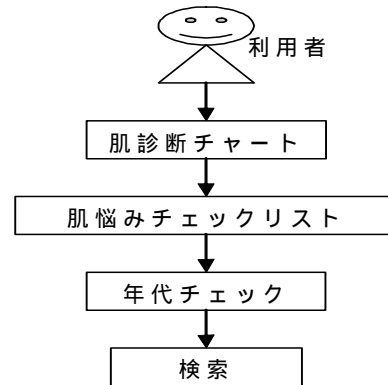


図3. 利用方法

この流れに沿って作成した検索画面は、図4. 検索画面のようになっている。この画面の上部に診断チャートがある。



図4. 検索画面

3 まとめ

本システムを、実際に20代女性10人に利用してもらった。その結果、利用者の9割が肌に合った商品を検索することができた。これは、実際の美容部員によるカウンセリングと同等の結果であった。このことから、利用者はカウンセリングを受ける時間と手間を省略でき、さらに気軽に商品を購入することができた。今後の課題として、システムをweb対応にし、利用者の幅を広げられれば良いと思う。